

臨江山 温泉寺

住所 〒392-0002 長野県諏訪市湯の脇 1-21-1

電話 0266-52-2052

宗派 臨濟宗 本尊 薬師如来

開創 慶安 2 年（1649）

高島城下の新たな藩主菩提寺として、二代藩主忠恒により創建。明治 3 年の火災で主要堂宇が消失しましたが、廃城した高島城から能舞台や門などを移築して復興されました。織田信忠軍が下伊那郡高森町の安養寺から奪取して諏訪市神宮寺で捨てたという梵鐘や、寺創建頃の作とみられる木造地藏菩薩座像など多くの文化財があります。

本堂裏手の多宝塔内には、鉄塔（石製宝塔）が安置されています。諏訪大社上社本宮にご神体として安置されていたもので、廃仏毀釈で撤去されて温泉寺に移されました。銘文から忠恒が寛永 8 年に制作したものとみられます。



能舞台鏡板（文政 10 年頃制作）



山門（明治 3 年頃移築）



梵鐘（永享 2 年鑄造）



鉄塔 *非公開

少林山 頼岳寺

住所 〒391-0001 長野県茅野市ちの 1753

電話 0266-72-3027

宗派 曹洞宗（禅宗） 本尊 釈迦如来

開創 寛永 8 年（1631）

寺の開基は初代藩主の頼水で、本山は永平寺（福井県）と總持寺（神奈川県）。本尊の釈迦牟尼仏は運慶・湛慶の合作と伝えられています。

本堂とその後方の開山堂は大正 6 年建立、庫裡は明治 35 年、山門と鐘楼は昭和 27 年建立です。山門にいたる杉並木は推定樹齢三百年におよぶもので茅野市の指定文化財。

諏訪家墓所は本堂左手の石段を登った正面、石垣と板塀で



御霊屋



頼水墓標

囲われた一角。朱塗り瓦葺きの御霊屋内は三室に仕切られており、左から初代藩主の頼水墓、中央が父の頼忠墓、右が母の理昌院墓です。墓標はいずれも石製で、頼水は石廟、両親は五輪塔と宝篋印塔が一對に安置されています。

《見学時のお願い》

墓所内はご自由にご覧いただけます。次の点にご留意ください。

- ・石造物には絶対に触れないでください。倒壊の危険があります。
- ・樹木の落枝にはご注意ください。
- ・斜面保護のため、階段以外を昇り降りしないでください。
- ・瓦や石などは拾ったり持ち帰らないでください。
- ・ゴミはお持ち帰りください。

《駐車場について》

墓所専用の駐車場はございません。

近隣する「湯の脇ふれあい広場児童遊園」（旧ふれあいの家）駐車場をご利用ください。住所：諏訪市湯の脇 1-10-2 墓所まで徒歩約 6 分

墓所に関するお問い合わせ

〒392-0027 長野県諏訪市湖岸通り 5-12-18

諏訪市教育委員会事務局 生涯学習課文化財係

TEL 0266-52-4141(内線 582) メール shougaku@city.suwa.lg.jp



2018 年 12 月 20 日 第 3 版作成



国史跡 高島藩主諏訪家墓所

国史跡「高島藩主諏訪家墓所」は、諏訪湖の東岸、諏訪市湯の脇地区に所在する、近世大名家墓所です。二代藩主の諏訪忠恒から八代忠恕までの 7 基の墓および妻や子供などの墓が築かれています。また、家臣らが奉納した約 120 基の石灯笼が並び建てられています。初代藩主の諏訪頼水は茅野市上原に所在する頼岳寺の境内に両親とともに墓が築かれており、両墓所は一括して国の史跡に指定を受けています。

国史跡の指定内容

指定年月日 平成 29 年 2 月 9 日

所在地 温泉寺墓所 諏訪市大字上諏訪字北垣外 10637 番 15 の一部

頼岳寺墓所 茅野市ちの 1754-ロ 外 1 筆

指定面積 温泉寺墓所 1283.77 m² 頼岳寺墓所 211.36 m²

歴代の高島藩主名称

代	藩主名	没年	墓所
1	頼水	1641	頼岳寺
2	忠恒	1657	温泉寺
3	忠晴	1695	温泉寺
4	忠虎	1731	温泉寺
5	忠林	1770	温泉寺
6	忠厚	1812	温泉寺
7	忠肅	1822	温泉寺
8	忠恕	1851	温泉寺
9	忠誠	1898	吉祥寺
10	忠礼	1878	吉祥寺

諏訪家は信濃国一宮諏訪大社の神職「大祝」や諏訪地域の領主として古代以来続く氏族でした。戦国時代、諏訪頼重が武田信玄に敗れて領地支配が一時途絶えましたが、織田信長が倒れると大祝職にあった諏訪頼忠が諏訪の地を奪還します。

頼忠は息子の頼水とともに徳川家康に従属し、関ヶ原の戦いで徳川秀忠に従い上田城を攻めた功績により、慶長 6 年（1601）、諏訪の領地を与えられて高島藩の初代藩主となりました。以後、諏訪家は明治維新に至るまで藩主を代々務めることとなりました。



慶応四年城下町図（1868 部分 諏訪市教委蔵）

高島城下の幕末頃を描いた絵図。藩主菩提寺の温泉寺と墓所（御廟所）周辺の様子がうかがえます。

歴代藩主の巨大な墓標

墓所には二代から八代までの7基の墓標（墓石）があります。特殊舟形と呼んでいる形状は独特なもので、他に類例がありません。

基本の形は踏襲しながら、石材や加工にそれぞれ違いもみられます。高さは約2.7mあり、非常に巨大です。



E 二代墓



線刻された文字には金泥による彩色がみられます。

F 五代墓



正面
標身の中央には戒名、右側に没年、左側に没月日を刻字しています。

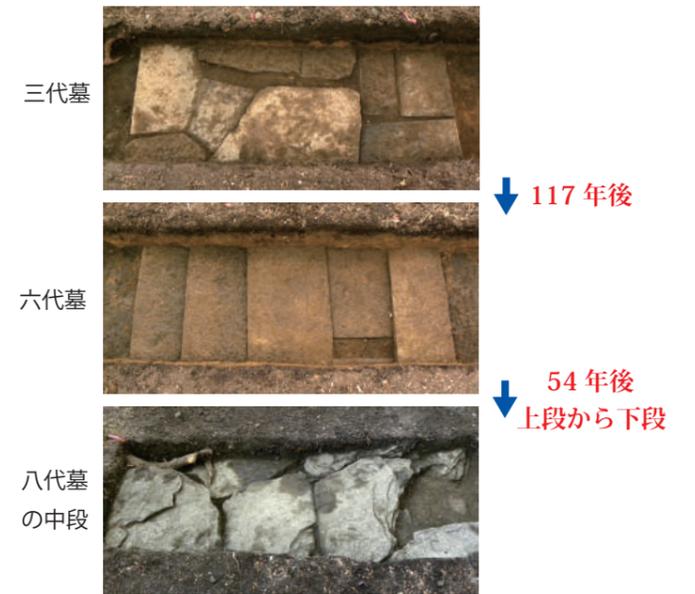


右側面
標身は前傾し、背面は舟底のような形をしていて加工は粗い。基壇には諏訪家の家紋「梶の葉」紋が彫られています。

参道の石畳にみる石材と加工の変遷

発掘調査によって検出された各藩主墓の参道石畳には、写真にみられるような大きな変化がありました。ひとつは、石材の形（加工度合い）で、古い段階では大きさや形がさまざまなものを巧みに組み合わせて幅180cmの道幅を設けています。時代が新しくなると石材は長方形の規則的なものになり、横方向に敷き詰めるだけになります。

また、八代墓の参道では墓が築かれている上段と、一段低い中段とで使用している石材が異なっていることが判明しました。墓前との差別化（荘厳化）を図るために意図して石材を変えたと推測されます。



藩主以外の墓

中段には妻や子供などの墓標が点在しています。籃塔形（石廟）や五輪塔形など、形はさまざまです。



I 盛光院墓（慶安4年）



L 遼晴院墓（天和2年）



V 雲台院墓（寛保3年）



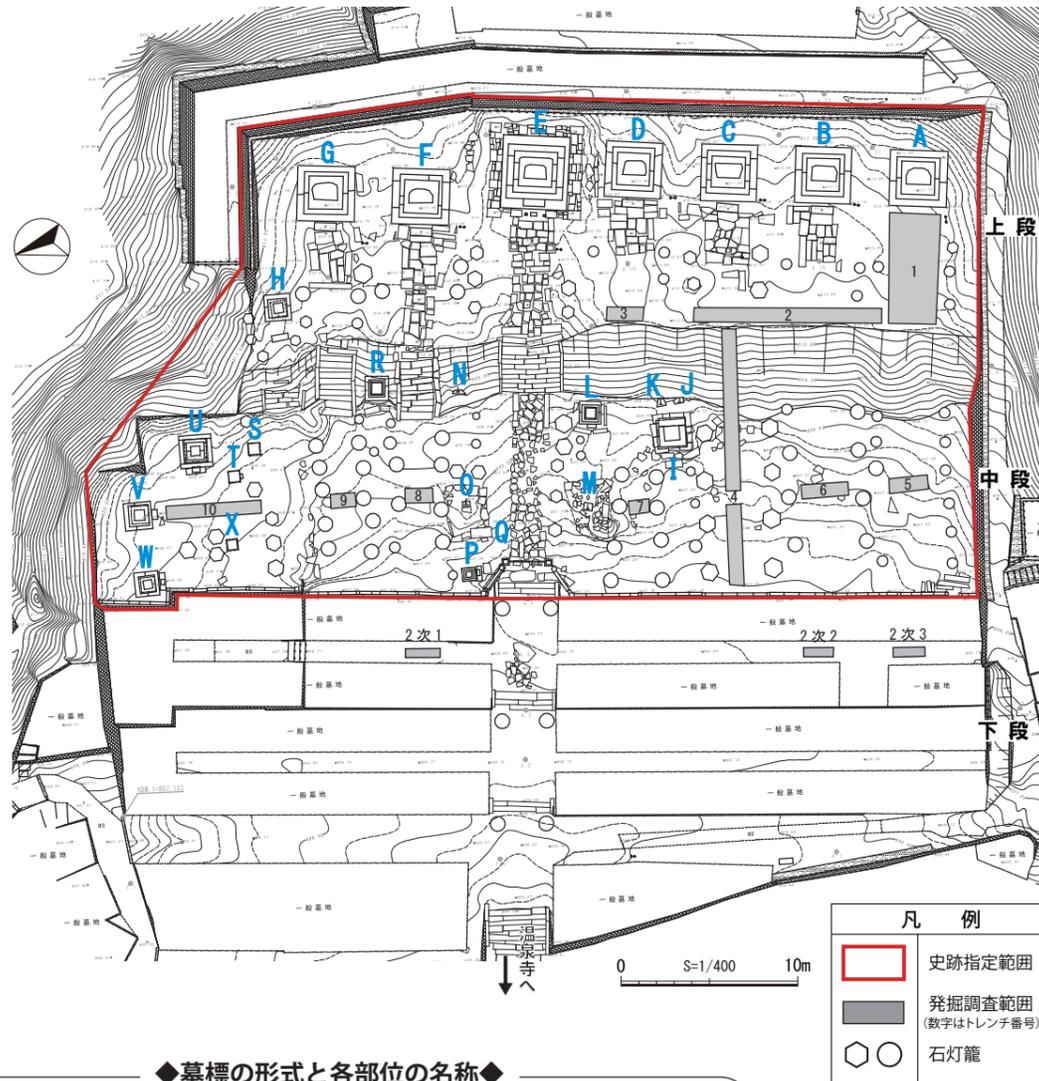
W 蘭香院墓（延享4年）



X 桂林院墓（天保2年）

墓標一覧	
A	忠恕(八代)
B	忠厚(六代)
C	忠晴(三代)
D	忠虎(四代)
E	忠恒(二代)
F	忠林(五代)
G	忠肅(七代)
H	忠尋(忠虎嫡子)
I	盛光院(忠恒二女)
J	未詳
K	未詳
L	遼晴院(忠晴四男)
M	貞松院(頼水室)
N	秀天童子(忠恒長男)
O	頼水(初代)
P	瑤心院(忠虎七女)
Q	未詳
R	月桂院(忠恒三女)
S	寂照院(忠恕嫡女)
T	幻光院(忠肅三男)
U	清昌院(忠恕室)
V	雲台院(忠林室)
W	蘭香院(忠林嫡男)
X	桂林院(忠恕七女)

温泉寺墓所全体図



二代墓の木造御霊屋（平成19年解体）

寛文13年(1673)建立 純和様式の素木造 宝形造り屋根根鉄板葺き 桁行3間、梁間3間、正面1間向拝

忠恒の死亡後16年後に建築されたとみられ、度重なる修理がありましたが、当初の部材も残されていました。江戸時代前期に遡る木造建築としても貴重なものでしたが、傷みが激しいことから現在は解体して、仮の御霊屋が設けられています。

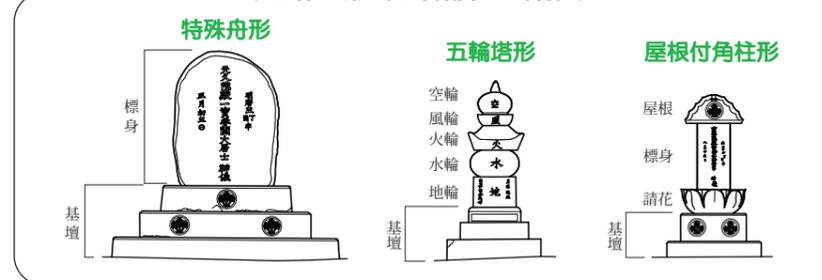


正面



扉の装飾

◆墓標の形式と各部位の名称◆



石灯笼

石灯笼は各藩主の参道の両脇に並んで建てられたとみられ、墓が追加されるたびに増え、現在は116基を数えます。最も古い灯笼は慶安4年(1651)で、装飾の少ない単純な形です。

17世紀後半から18世紀中頃の灯笼は装飾が増えて高さもあり豪華になります。18世紀後半から19世紀にはほぼ同じ形を踏襲していきます。時代による変化と各代の特徴も表れているとみられます。



慶安4年(1651)

寛保3年(1743)

嘉永4年(1851)